

## 様式③

提出日 年 月 日

# 2017年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「西表島の郷土料理と文化に関する研究」

氏名：有川滝之尚 高良大夢 津波元規 外間円汰

所属学部学科：人文学部 こども文化学科

## I. 初めに

沖縄には大小様々な島々があり、方言などの言葉をはじめとして、それぞれ独自の伝統や文化が地域ごとに根付いている。それに着目して、独特な郷土料理もあるのではないかと興味を持った事がこの研究を進めるキッカケとなった。

## II. 研究の目的、動機

西表島については「イリオモテヤマネコ」などの動物や、「サキシマスオウ」といった植物、など独特な「生物」のイメージがあった。そのため郷土料理についてのイメージはなかったが、食材の独自性から、西表島には独特な郷土料理の文化が根付いているのではないかと考えた。また独自の郷土料理を調べることは、それに関係する地域の文化についても知ることができると考えた。それで、西表島の文化と料理に関する研究というテーマを設定し、研究を進めることにした。

## III. 研究方法、地域、期間

研究方法：地元の人へインタビュー、現地食堂での調査、文献調査

地域：西表島

期間：6月～2月

## IV. 結果

西表島に住む石垣金星さんから、郷土料理や地域の文化について話を聞くことができた。そこで分かったことは、西表島には沖縄そばやタコライスのような特有の名前が付いた郷土料理と呼べるような物はないということである。しかし、西表島で採れる自然の植物などを地元住民は口にしている。石垣さんによれば、ヒカゲヘゴやオオタニワタリなど昔から成育している植物を食べる習慣があることが分かった。また、それらをただ食べるだけでなく、料理の仕方も工夫して、その地域の行事に即して食べる物は変わってくるということであった。例えば、色の付いたかまぼこを食べるとか、数量を限定して提供するとかである。これらの料理から窺えるが、特に名前は付けられていないが、独自の調理法を用

いて地域独自の食材で料理が作られている。このような料理は「郷土料理」と呼ばれていないが、郷土料理といえるのではないか。また、「郷土料理」と島の文化との関係についても、大きな関係性があった。石垣さんの話によれば、食べ物自身に大きな意味が含まれているという。例えば、猪を食べてしまうと苗代の種を食べられてしまうため祈祷祭の時には猪を絶対に食べてはいけないということである。そうした点からも西表島では食べ物についても、深い意味があることが分かった。

## V. 考察、分析

今回は郷土料理についての研究に取り組んだ。なかでも、西表島に焦点を置いた。その中で地域の人々に話を聞いて得られることがあった。私たちがイメージしているような郷土料理と呼べるものは無かった。しかし、地元住民の石垣金星さんの話によると、ヒカゲヘゴやオオタニワタリなど昔から生息している植物を食べる習慣があることが分かった。また、その地域行事ごとに食べる食べ物は変わっている。例えば、豊年祭のときは色の付いた料理をいただくということ。食べ物に関する言い伝えもあり、猪を食べてしまうと苗代の種を食べられてしまうため祈祷祭の時には猪を絶対に食べてはいけないということ。こうした話を聞くと、西表島では食べ物について、深い意味があると考えられる。と同時に、名前の有無に関係なく、地域独自の食材で作られる、地域の人々にとって意味のある料理は、「郷土料理」といえるのではないかという結論にいたった。

## VI. 今後の展望

西表島の郷土料理が気になり始めた研究であったが、結果として素材などにおいては他の地域ではあまり食べられることのないモノを食べる習慣があった。しかし、郷土料理自体は『西表島特有』な名称の料理は見つけることができなかった。西表島以外の沖縄県の他の離島でも、石垣島や宮古島などの比較的大きい渡嘉敷島などの島も含めて『郷土料理』といわれてすぐ頭に浮かぶものはないことが気になった。そのことを受けて今後の展望として、それらの島々に固有の名称を持つ郷土料理はあるのか、あるのならば何故にあるのか、ないのならば何故無いのかななどを調べていけたらと考える。

## VII. 終わりに

私たちはゼミの活動としてこの琉球弧研究に参加した。大学の授業でレポートを提出することはあっても『研究』と称したものに携わることは初めてであった。西表島の郷土料理について、というテーマを定めて研究を開始したが、調べてすぐに郷土料理と呼ばれるものが見つからずとても焦った。このことからテーマは決めてから動くのではなく、テーマの内容が本当に研究対象としてふさわしいのか、テーマの事象は私たちの力で研究することができるものなのか、などをしっかりと吟味する必要がある

ることが分かった。今回この琉球弧研究に参加できたことは沖縄の歴史や文化などを  
知ることができただけでなく、研究という活動ができたという点でとても大きな経験  
となった。これから様々なことでレポートを書いたり卒業時には卒業論文などがあり  
今回の経験はとても役に立つと思う。経験を最大限に生かせるよう日々努力してい  
きたい。

#### VIII. 参考文献、調査協力

地元の人へインタビュー、現地食堂での調査、文献調査

#### IX. 指導教員コメント

共同で研究をすることは、初めての経験だったということで、いろいろ迷ったり悩ん  
だりしたようである。しかし、今回の経験を通して資料がないと、テーマは面白くても  
研究としてまとまらないことを学んだと思う。そういうなかで、名称の有無に関係なく  
「郷土料理」は存在するというのを、地域の固有の食材や行事に着目して見出した点  
は、よかったように思う。

指導教員：梶村光郎